

第8回IR推進会議 概要

参考資料1

<日時>

平成30年7月18日(水) 10:00～12:00

<場所>

大阪府庁本館5階 議会特別会議室(大)

<検討事項にかかる主な意見①>

テーマ	主な意見
◆IR推進局における今年度の取組み状況	- ギャンブル等依存症対策基本法には、具体的なことは書いておらず、国の責任で今後検討されるだろうが、大阪では、将来のカジノを含め、既存のギャンブル等についてすぐに依存症対策に取り組んでいくべき。 - 大阪独自で依存症にかかる経年変化のデータを取って、依存症対策の前後の数字の変化を示していくべき。 - 治安・地域風俗環境や交通、防災・減災などの各種課題についても、今まであった問題も含めて、IRを契機とした実務的なレベルでの研究や、最先端のIT技術の活用も検討が必要である。 - 懸念事項について、例えば暴力団などの反社会的勢力に対しては、明確な指針を出すなどきっちりと担保したうえで、懸念が起らないということを分かりやすく説明することが大事である。 - 地域へのメリットについて、経済面、文化面それぞれについて、身近なところから情報発信をしていくことが重要である。 - 夢洲にIRができれば、これまでの大阪の観光客がそちらに流れてしまうという懸念に対しても、海外のIRの事例を示して、IRにより観光客が今までよりも増えたということを、エビデンスベースで示していく必要がある。 - IR推進会議での議論が具体化していく中で、大阪府・大阪市、地元経済界、府民・市民が、どういったところを担っていくのかや、どういった形で実施方針等に落とし込んでいくのかについて、見通しを示して欲しい。 - 大阪IR基本構想に盛り込む理念については、世界の中の大阪の位置付けを意識し、きちんとエビデンスを持って検討したうえで作ってほしい。

第8回IR推進会議 概要

<検討事項にかかる主な意見②>

テーマ	主な意見
◆中核施設 検討の前提 となる大阪 観光の現状 と課題	・ 広域観光連携は西日本全体で連携していき、大阪IRを活用してもらおうという観点が必要であり、その際に、例えば、関西観光本部や各地のDMOなどの活用・連携も検討すべき。 ・ 地震や災害時の訪日外国人旅行客に対する避難のあり方について、今は全く想定にないため、IRで滞在型観光を実現するにあたっては、国の動きをキャッチアップしながら検討が必要であり、今後の論点の一つである。 ・ IR内に地域のお祭りなどいろいろなものを一手に集めるなど、インバウンドがワンストップで情報を得られるようにし、興味があれば、そこですぐに予約が取れて現地に行けるような施設が望まれる。 ・ 観光客が情報機器を利用して情報を共有し、それを広めていく時代になるので、まずは大阪IRに行ってみようとなるような仕掛けや、もう一度IRに来たいと思わせるような仕掛けを検討して欲しい。 ・ 健康を来訪・滞在の目的とする人も多くおり、関西エリアは再生医療も含めて、先進的な医療分野があるので、それらがインバウンドを呼び込む契機になれば、医療分野の進歩や観光消費の増加などにもつながっていく。 ・ 大阪の特徴を活かしたユニークベニューや、日本の文化を取り入れた日本・大阪独自のナイトカルチャーを生み出していくべき。 ・ 行政や鉄道事業者等の協議により、陸海空の交通ネットワークのインフラをきっちり整備し、周辺観光地にストレスフリーで移動できるようにすべき。 ・ 外国人観光客だけでなく、ビジネス客や研究者も大阪IRに呼び込むために、大阪を会議の場として選んでもらうための環境整備などの仕掛けも必要である。